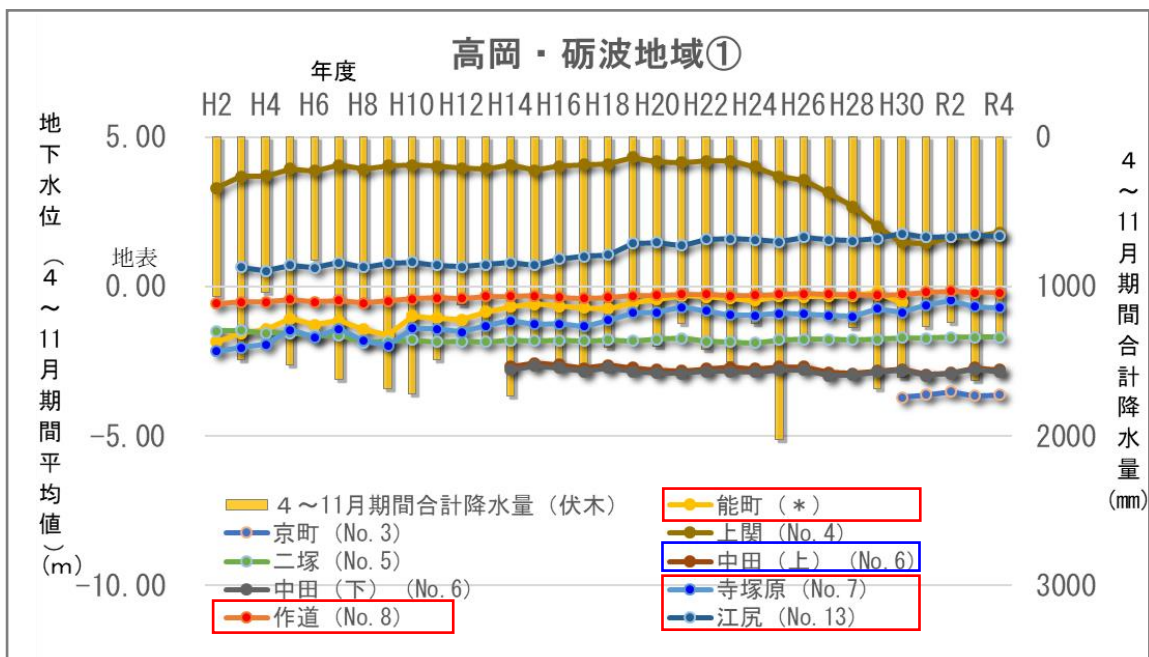
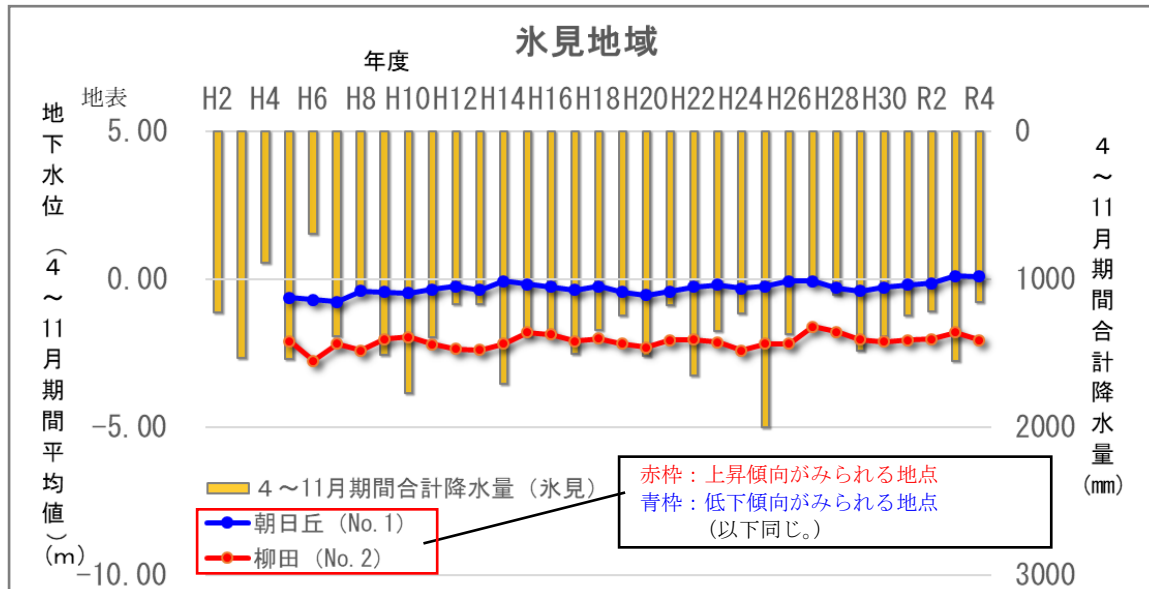


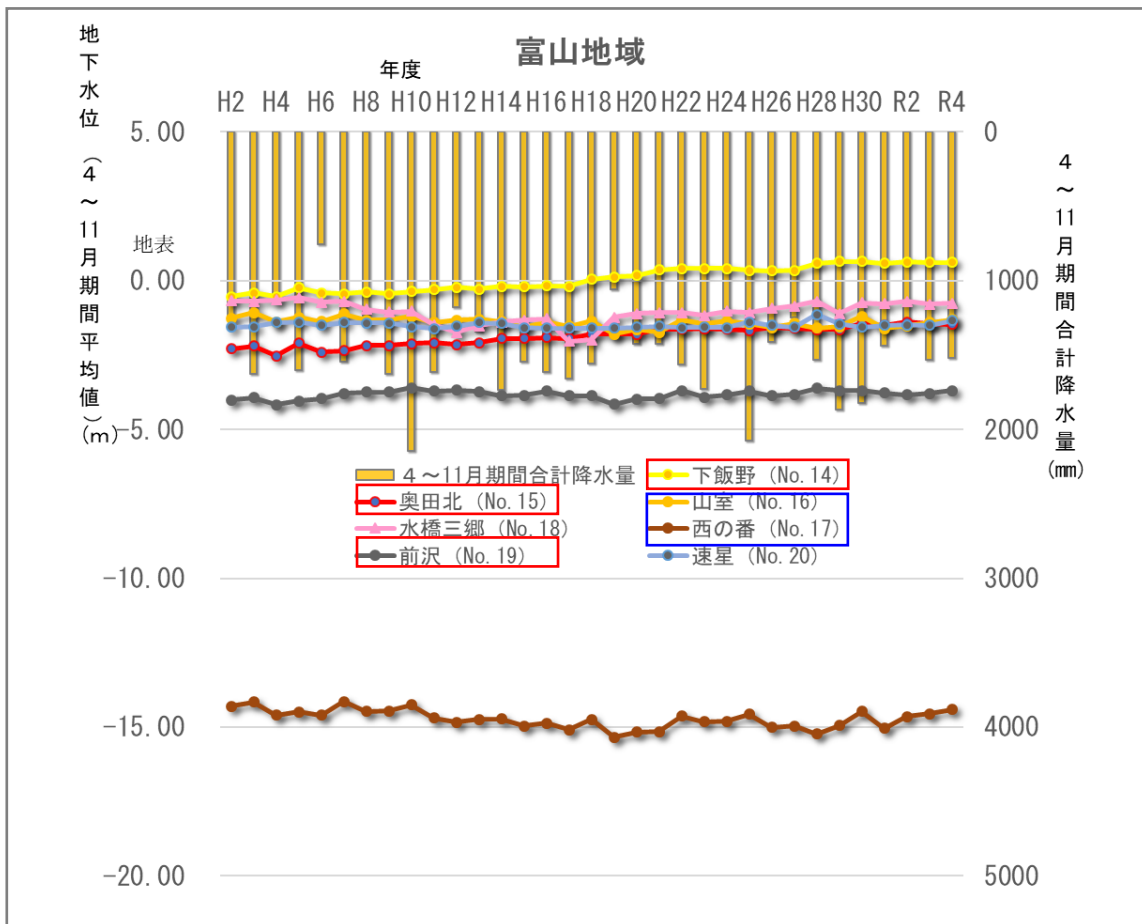
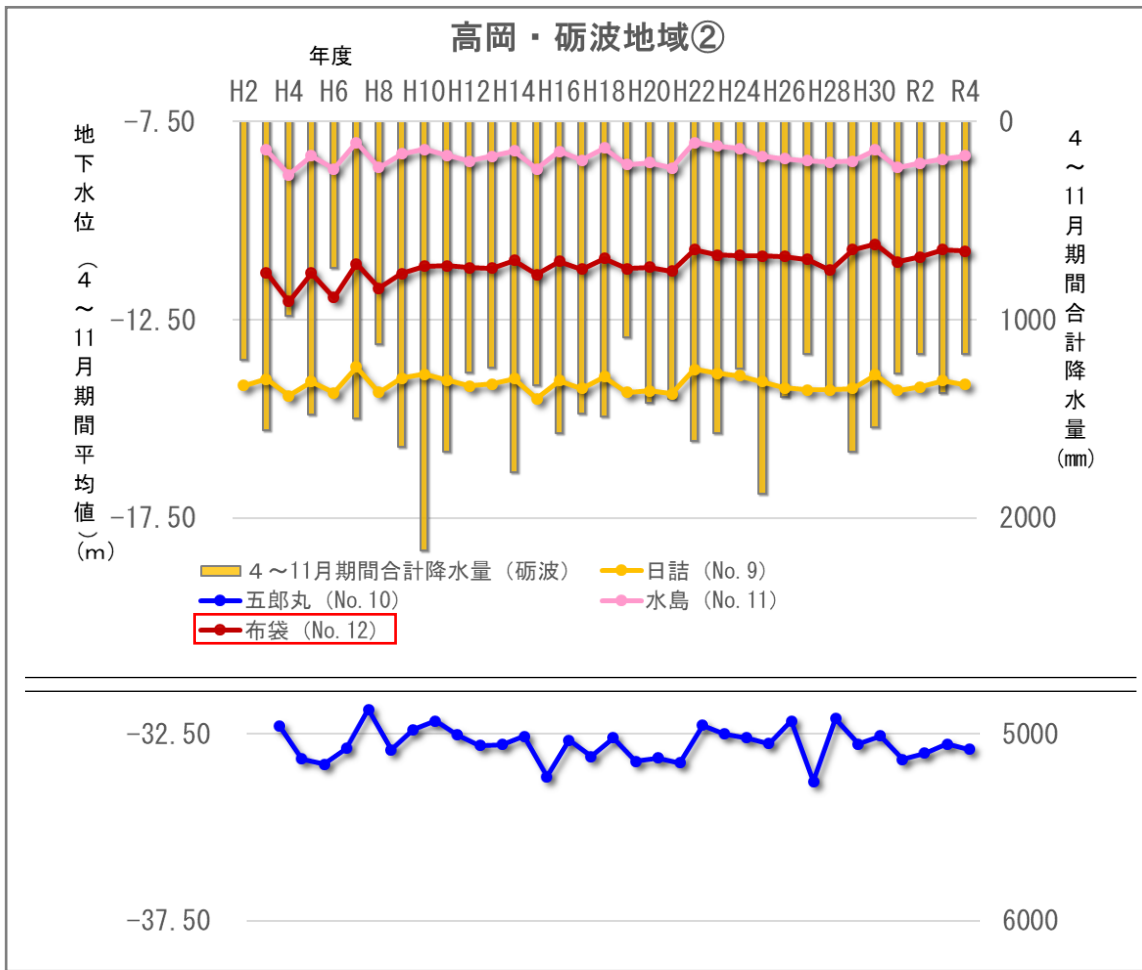
1 4月から11月の地下水位（期間平均値）と期間合計降水量

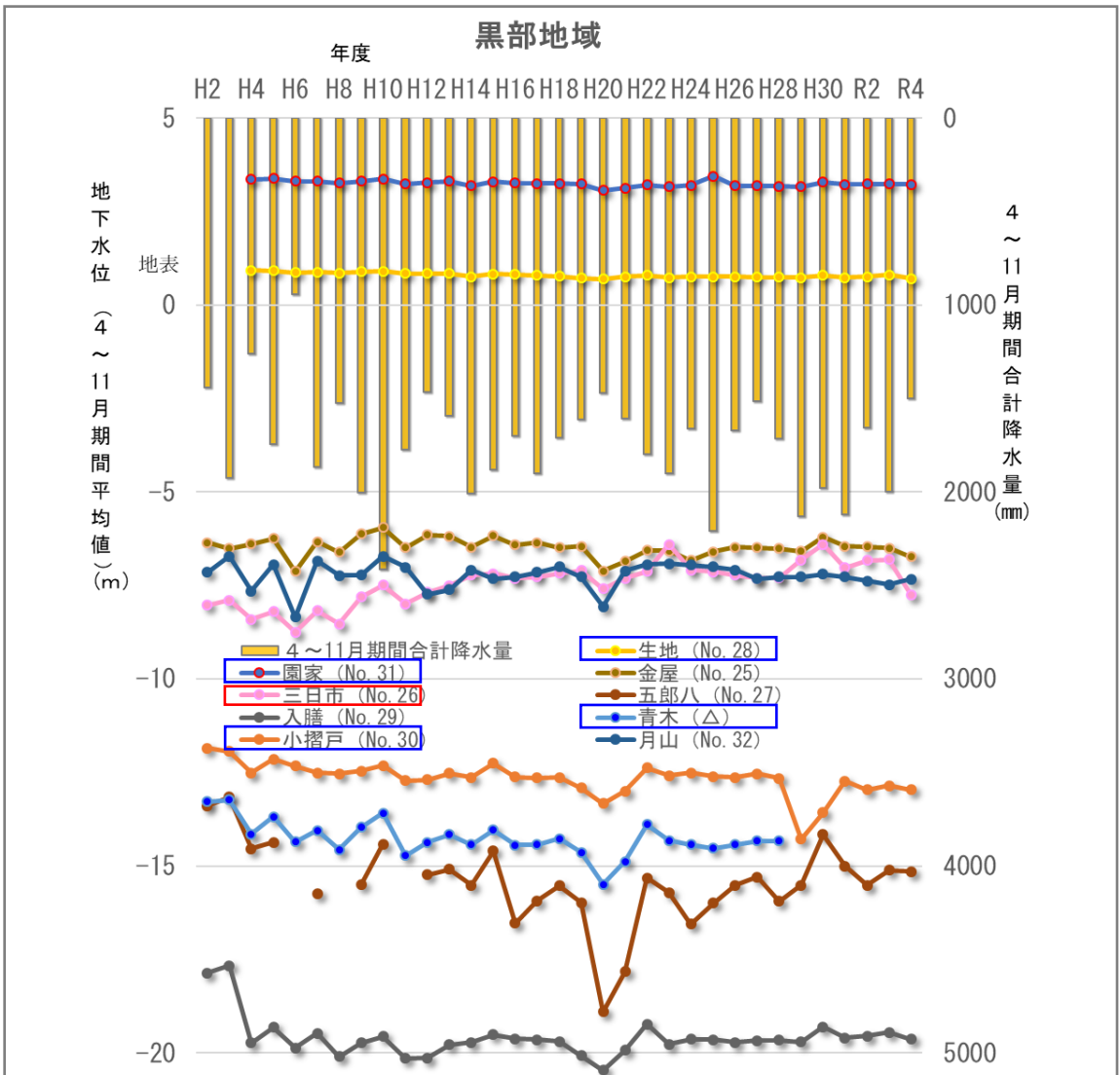
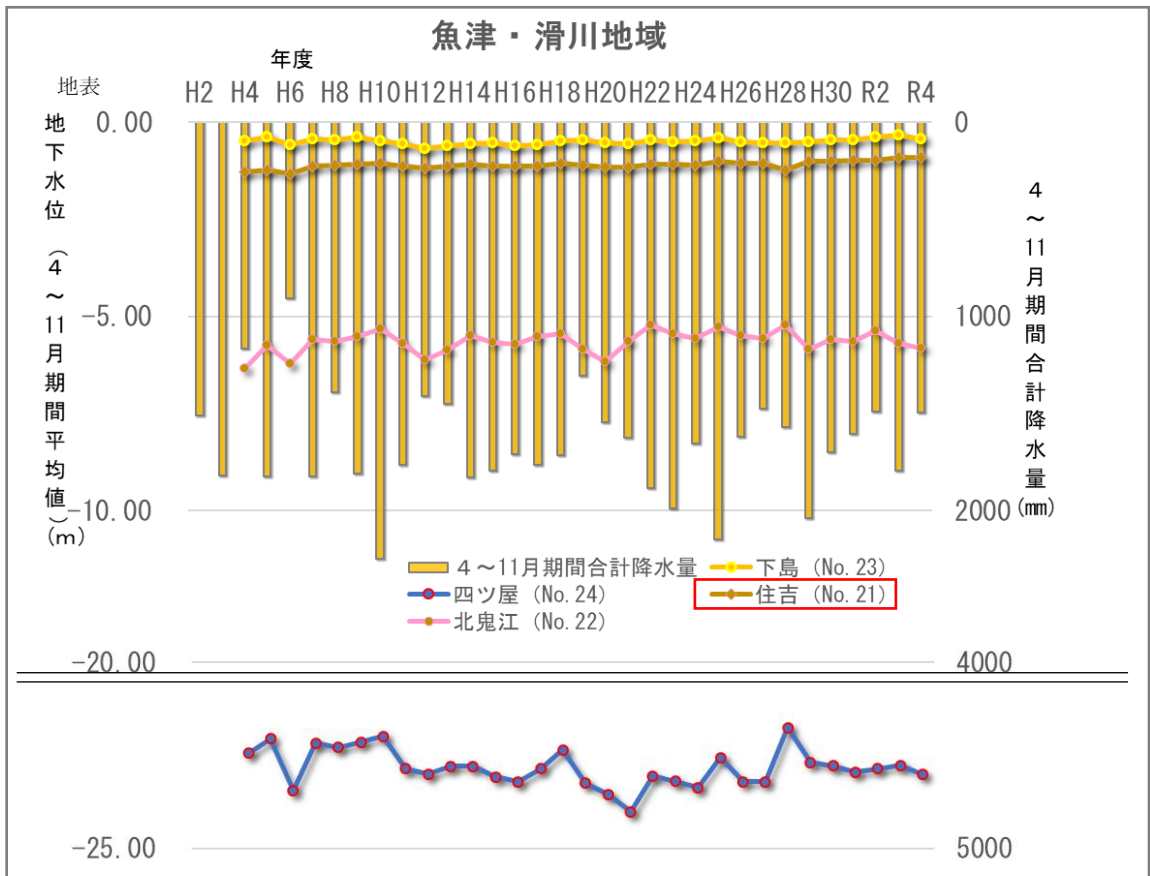
（概況）

4月から11月の地下水位（期間平均値）は、ほぼ横ばいだが、一部の地点で上昇、低下傾向が見られる。

（図中の赤枠で囲んだ地点：上昇傾向、図中の青枠で囲んだ地点：低下傾向  
日平均値のデータがない期間を除外しているため、対象期間は年平均値と異なる。）



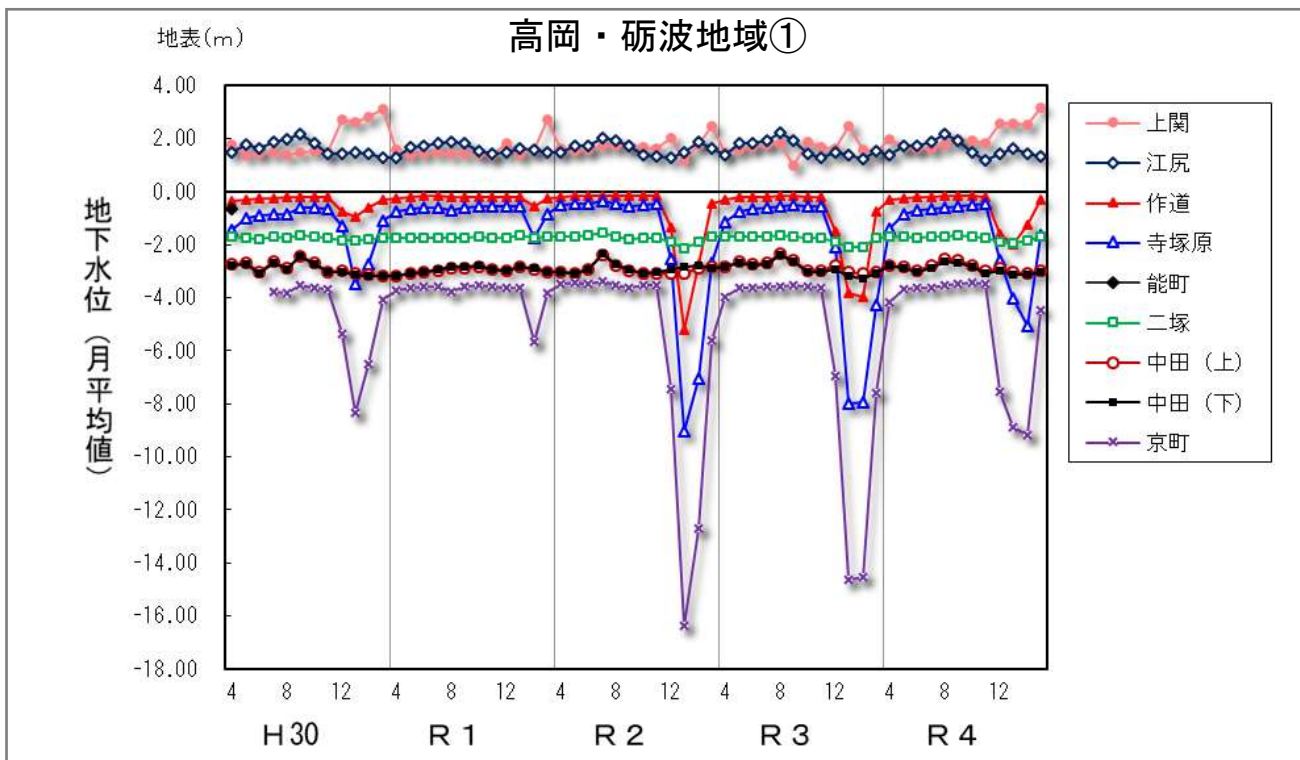
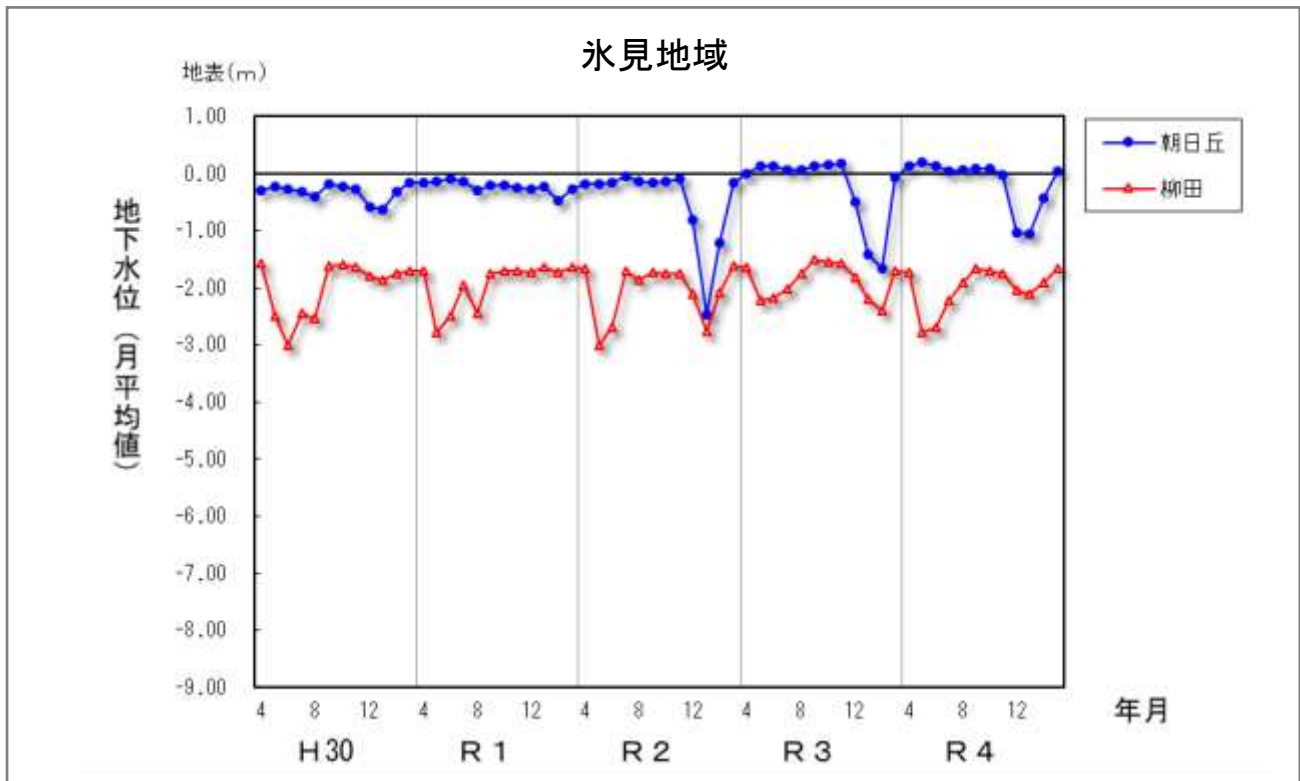


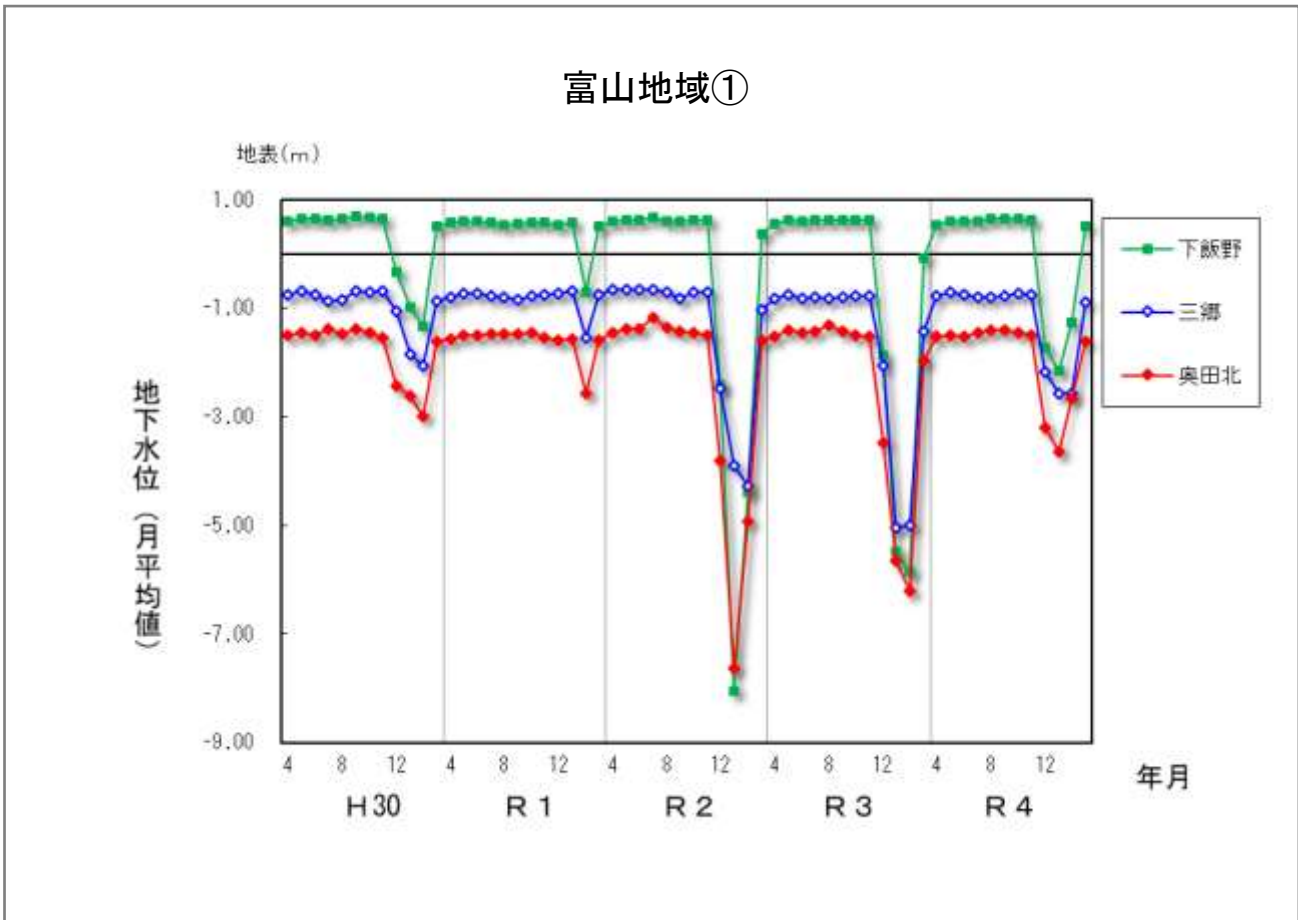
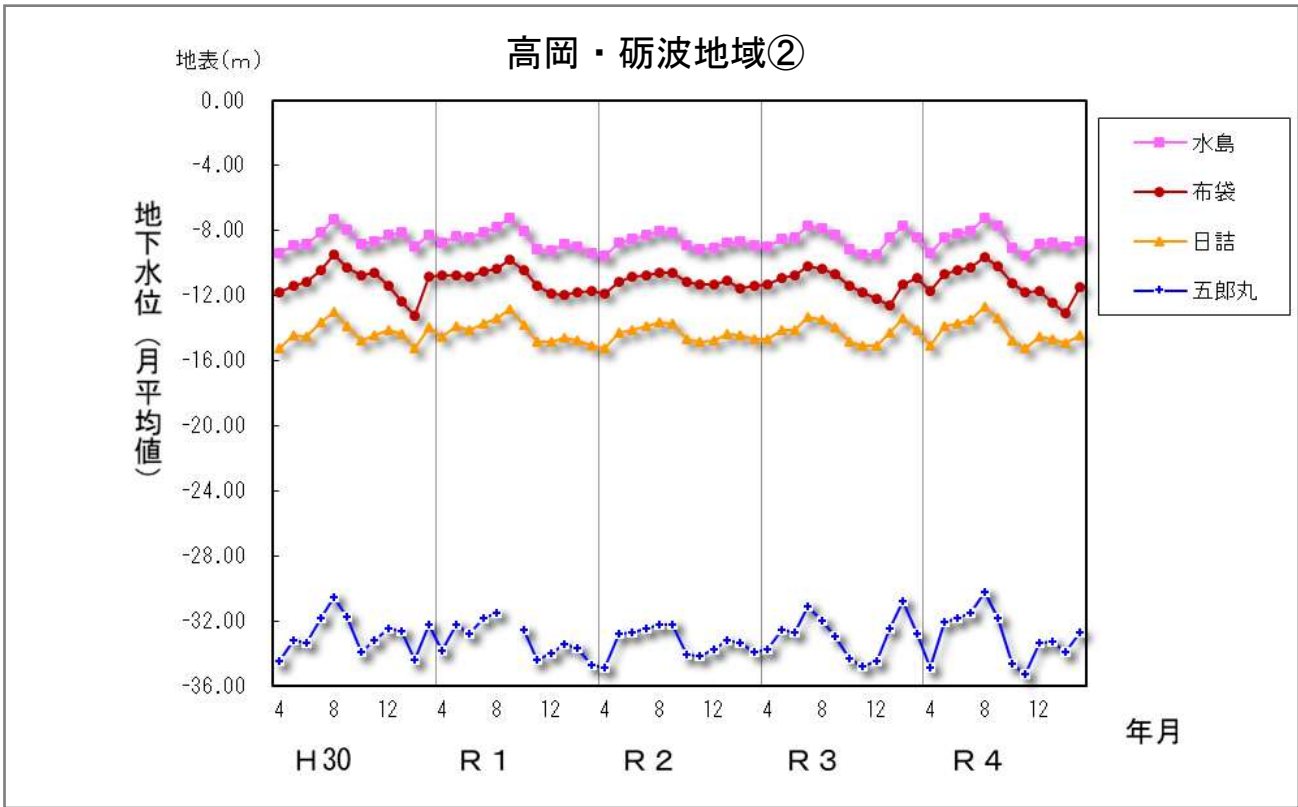


## 2 地下水位（月平均値）

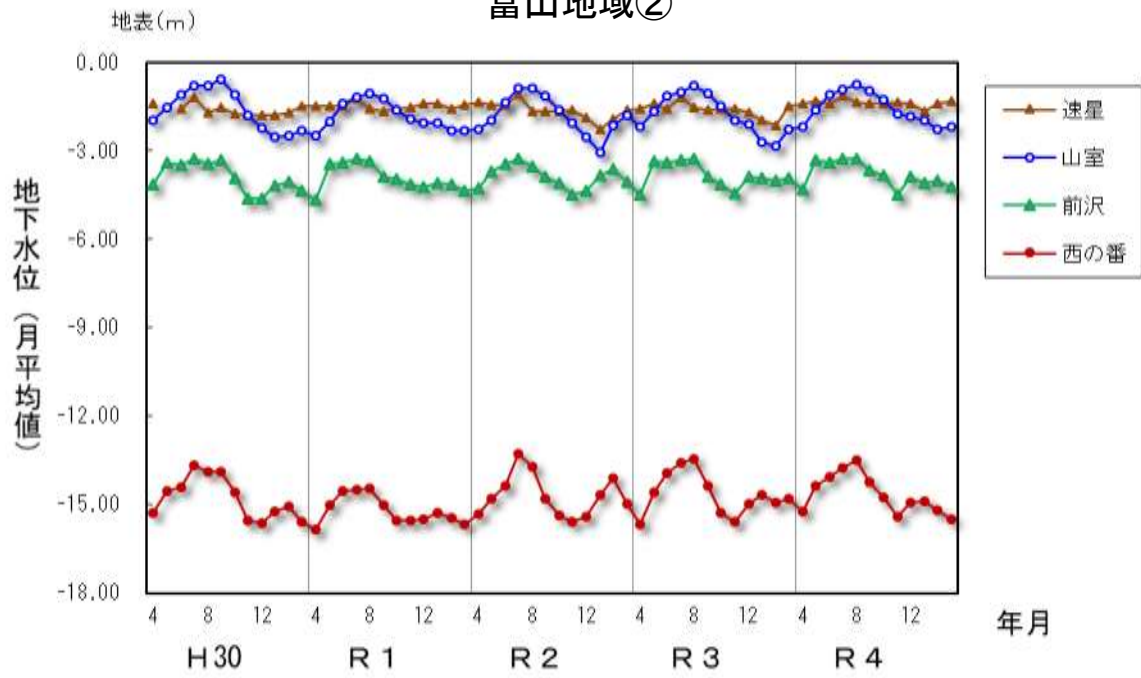
（概況）

図は直近5年間の地下水位（月平均値）の推移だが、消雪設備が集中している市街地で12月から3月の冬期間に地下水位の大幅な低下がみられる。

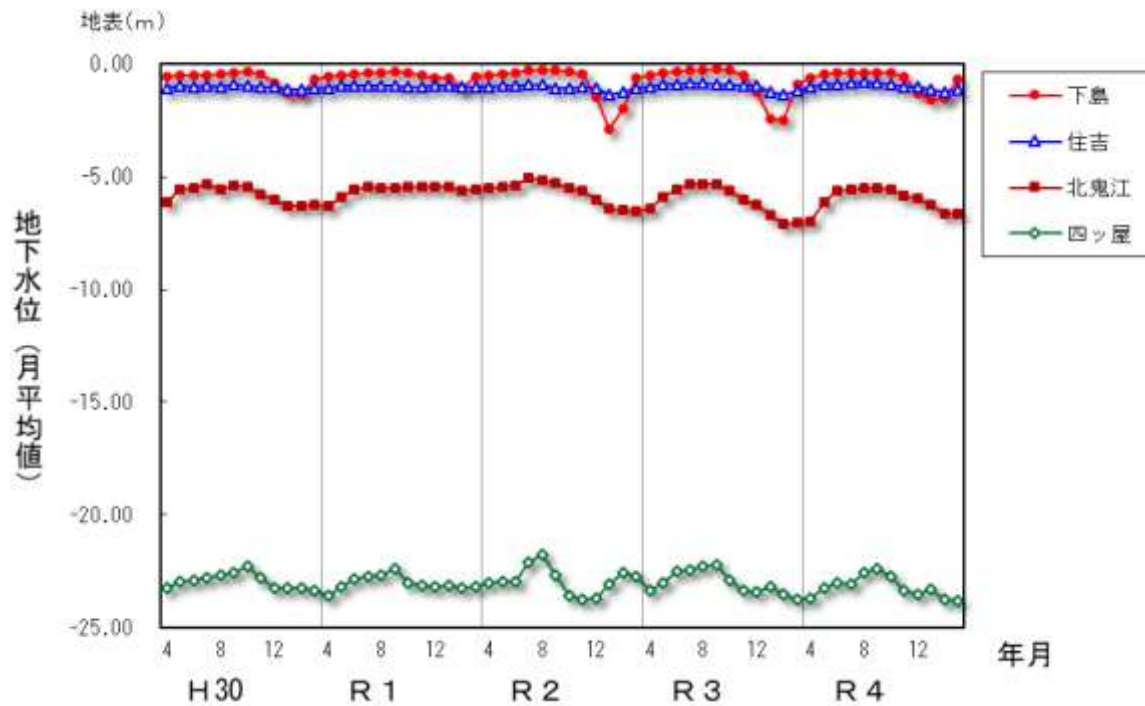




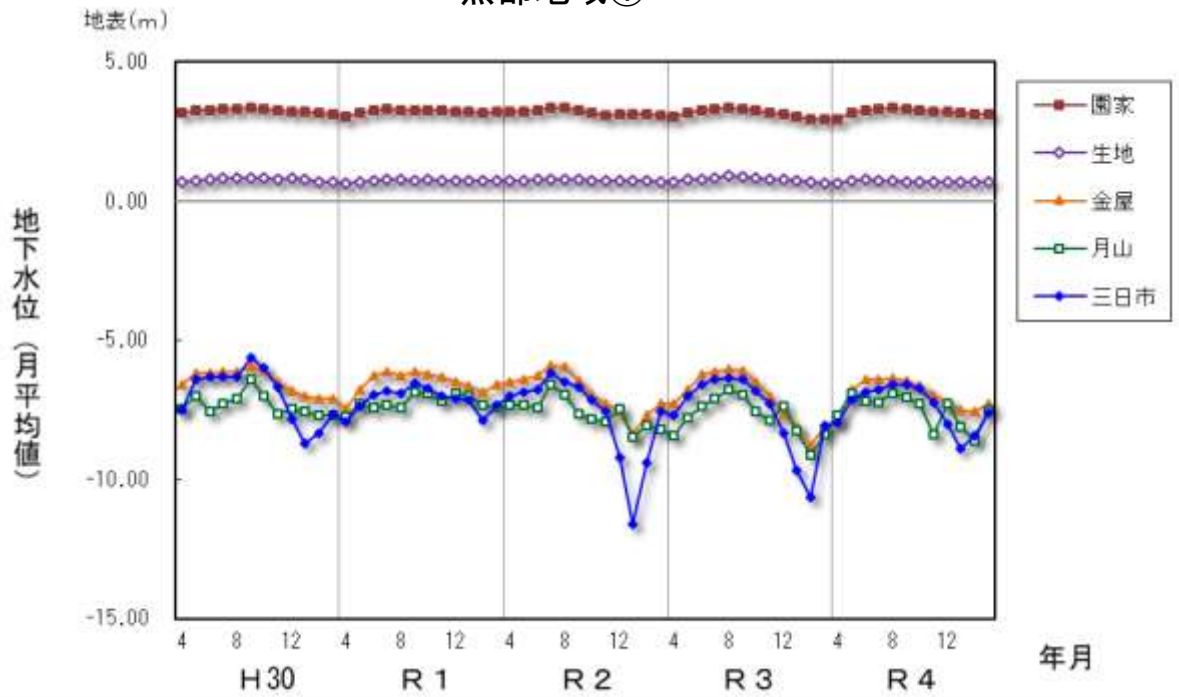
### 富山地域②



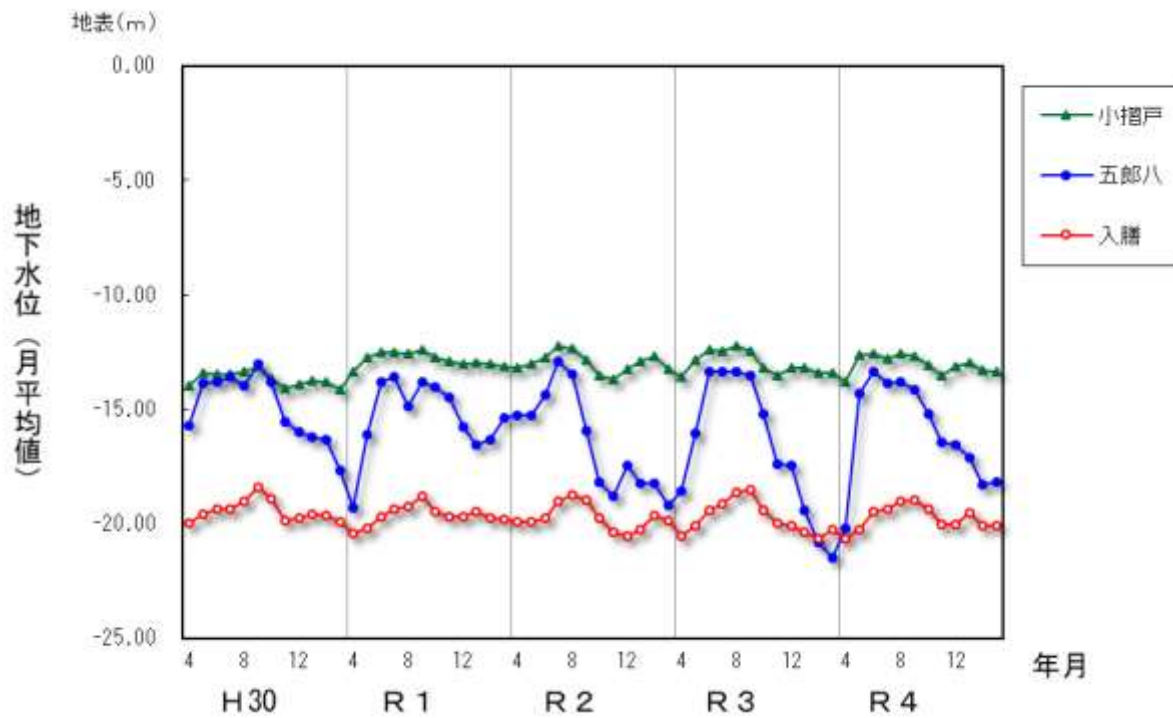
### 魚津・滑川地域



### 黒部地域①



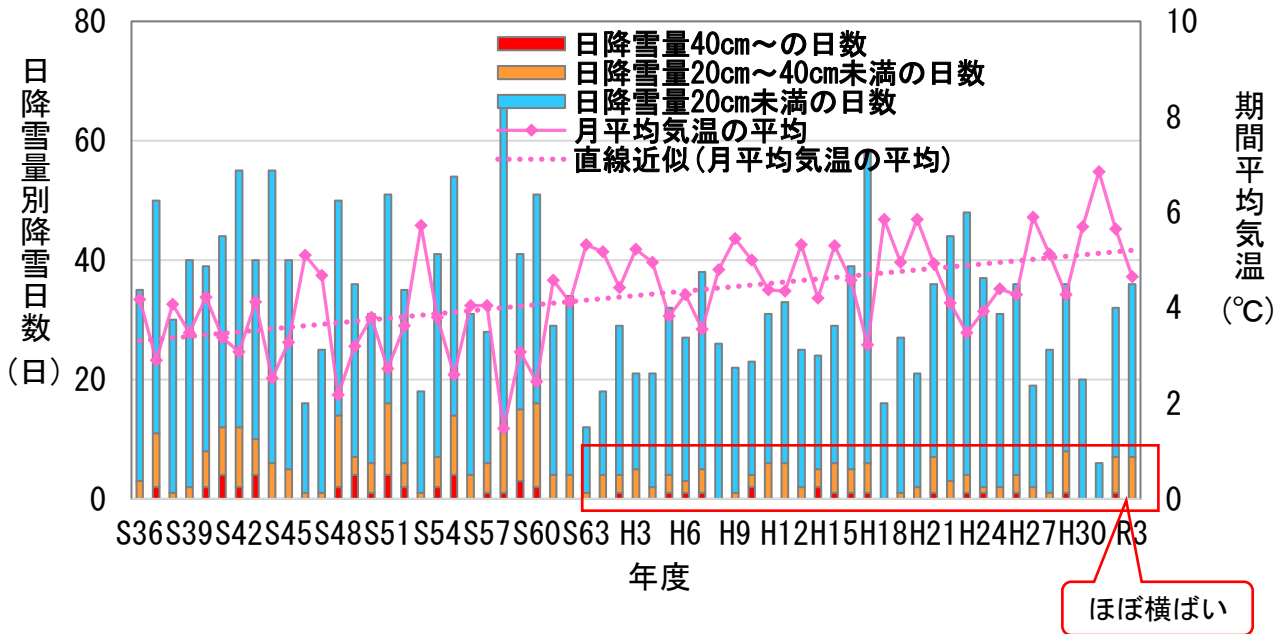
### 黒部地域②



### 3 日降雪量別降雪日数と期間平均気温の推移（12～3月）

#### 【概況】

直近 30 年間では日降雪量 20cm 以上の日数はほぼ横ばい。

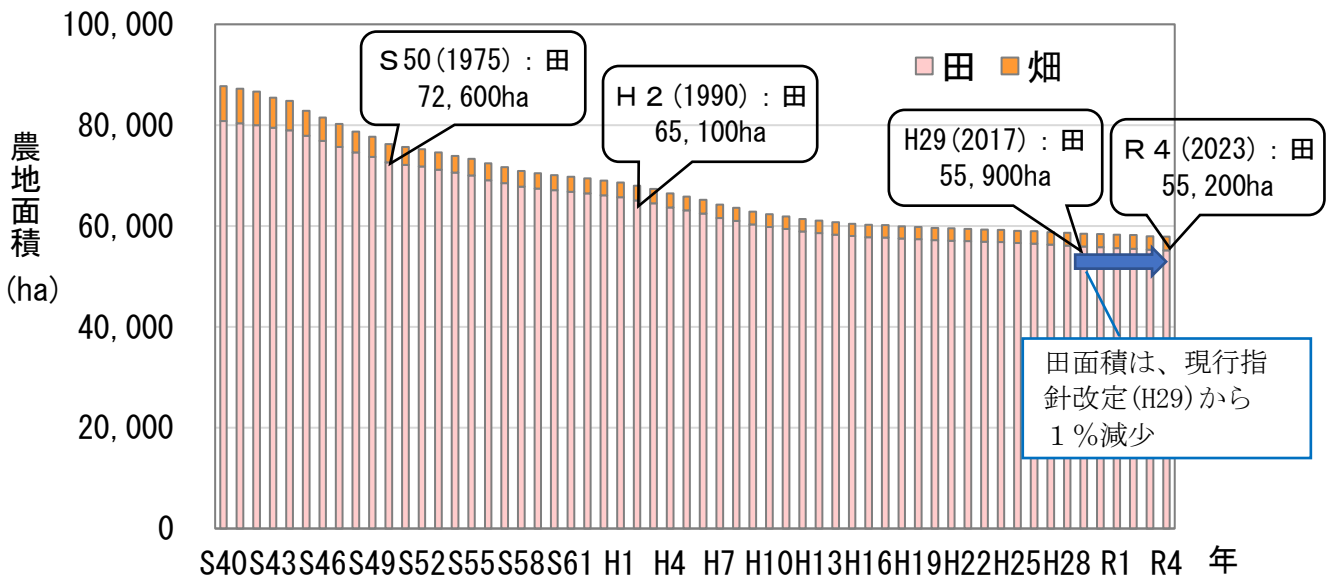


### 4 農地面積の推移

#### 【概況】

農地面積は減少を続けており、令和 4 年の田の面積は、昭和 50 年(1975 年)比で 20% 超、平成 2 年(1990 年)比で 15%減少している。

(現行指針改定時(平成 29 年(2017 年))からは 1%の減少。)



※農林水産省 作物統計調査 統計調査のデータを累年グラフ化したもの

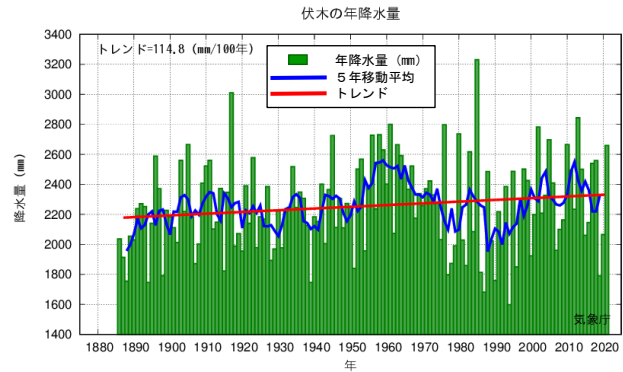
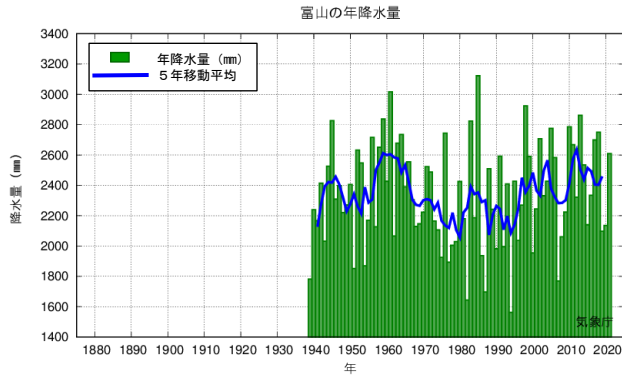


## 5 気候変動の将来予測

### (1) 雨の降り方

#### ① 現状

富山の降水量に変化傾向は確認できない。伏木の降水量は増加しているとみられる。



※出典：気象庁（富山県の気候変化）HP

#### ② 将来予測

1時間降水量30mm以上の発生回数及び無降水日数ともに、将来は増加すると予測される。

### 雨 の 変 化

➤ 21世紀末にはバケツをひっくり返したように降る雨\*の発生が約1.4倍/約2.2倍に(2°C/4°C上昇シナリオ)

**これまで**

富山県では1時間降水量30mm以上の発生回数に有意な変化はみられませんが、最近10年間(2011~2020年)の平均年間発生回数は、統計期間の最初の10年間(1979~1988年)と比べて**約1.1倍**に増えています。

富山県の1時間降水量30mm以上の発生回数変化

**これから** 富山県を平均した変化量を示す

**2°C上昇シナリオ**

富山県では1時間降水量30mm以上の雨は**約1.4倍**に増加。

**4°C上昇シナリオ**

富山県では1時間降水量30mm以上の雨は**約2.2倍**に増加。

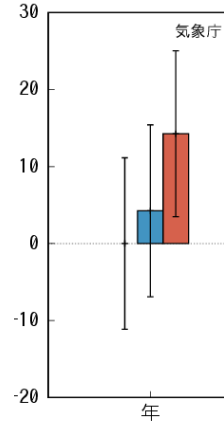
地域単位での予測は不確実性が高いことに注意

※バケツをひっくり返したように降る雨：1時間降水量30mm以上

※出典：富山地方気象台・東京管区気象台「富山県の気候変動（令和4年3月）」

無降水日数の変化（富山県）

(日/地点)



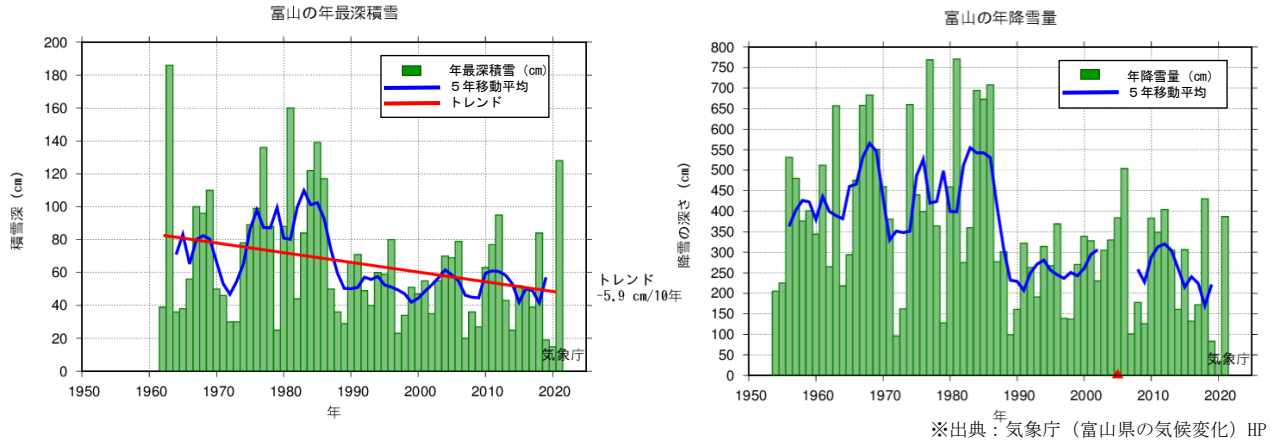
■：2°C上昇シナリオでの無降水日数  
■：4°C上昇シナリオでの無降水日数

※出典：気象庁（富山県の気候変化）HP

## (2) 雪の降り方

### ① 現状

降雪量は2005年に観測方法を変更しており、長期変化傾向は算出していません。  
年最深積雪は減少しているとみられる。



### ② 将来予測

年降雪量、最深積雪ともに将来は減少するが、「ドカ雪」のリスクは残ると予測される。



### <残る「ドカ雪」のリスク>

気温が2℃上昇、4℃上昇した場合をシミュレーションしたデータから、県内平野部における降雪について解析したところ、年間総降雪量については現状（2000年頃）から大幅に減少しましたが、短時間降雪量の年最大値（「ドカ雪」の強さ）については、6時間値、1日値のいずれもそれほど減少しないことがわかりました。このことから、地球温暖化が進んだ将来においても、ドカ雪のリスクが残るため、大雪への備えは今後も継続が必要です。

